

疫学情報 2017年8月16日分

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/3130/nagekomi/20180801.html>

## 侵襲性髄膜炎菌感染症の発生について（2017年8月1日）

横須賀市健康部保健所健康づくり課

平成29年7月24日に市内医療機関から侵襲性髄膜炎菌感染症の発生届を受領しました。調査の結果、発病者1名が死亡し、保菌者が10名いることが判明しました。保菌者が保菌に至った経緯が今回の発病者と関係しているかは不明ですが、感染の拡大防止を図るため、76人の濃厚接触者に対して、予防内服を実施して、現時点で発病者はいません。

侵襲性髄膜炎菌感染症とは、髄膜炎菌による侵襲性感染症（本来無菌環境である部位から起因菌が分離された感染症）のうち、この菌が髄液または血液から検出された感染症のことをいう。潜伏期間は、2～10日（平均4日）で、発症は、突発的で、頭痛、発熱のほか、点状出血や出血斑が認められることがある。重症化すると意識障害やショックなどに進展することがある。侵襲性髄膜炎菌感染症は、学生寮などで共同生活を行う10代にリスクが高いと言われているため、特に共同生活をしている場合は注意が必要です。

### 1 発病者の経過

発病者（市内全寮制学校10代男子学生）は、7月19日の夕方に熱っぽさを自覚し、7月20日の朝に発熱、昼頃に紫斑などが出現し、市内医療機関を受診したが、7月25日に亡くなっています。

### 2 濃厚接触者への対応状況

学校関係者の濃厚接触者は、42人（学生27人、職員15人）で、そのうち保菌者は、10人（学生9人、職員1人）です。医療機関での医療従事者等の濃厚接触者は、34人です。学校関係者の42人と医療従事者等34人の計76人全員に発症を予防するために抗生物質の予防投与を実施しています。学校関係者の濃厚接触者については、最終接触時点から10日以上過ぎた現時点で新たな発病者はいません。

### 3 今後の対応

侵襲性髄膜炎菌感染症の潜伏期間を過ぎて新たな発病者がいないことから、現時点で感染拡大の可能性は、低いと考えられますが、関係機関と連携し、原因菌の血清群、遺伝子型の調査を実施します。

本報道提供は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第16条の規定に基づき、情報の公開として、侵襲性髄膜炎菌感染症に対する注意喚起を目的としています。

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000174219.pdf>

事務連絡

平成29年8月8日

都道府県 各保健所設置市 特別区 衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康局結核感染症課

ダニ媒介感染症に係る注意喚起について

ダニ媒介脳炎については、平成 29 年 7 月 11 日付け事務連絡にて、北海道において国内 3 例目となる患者の発生が確認されたことについて、情報提供を行ったところですが、今般、北海道札幌市において国内 4 例目発生が確認され、別紙のとおり札幌市がプレスリリースを行いましたので、情報提供します。

ダニ媒介脳炎や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を含むダニ媒介感染症に関しては、ダニに咬まれない予防措置を講じるとともに、もし発症した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けることが重要であることを、従前より周知してきたところです。各自治体におかれましては、先日配布しました、蚊媒介感染症及びダニ媒介感染症の予防啓発資材を活用し、ダニ媒介感染症について、改めて注意喚起をお願いします。

＊別紙：平成 29 年 8 月 8 日付け札幌市プレスリリース

報道機関各社様

平成 29 年 8 月 8 日

City of Sapporo

ダニ媒介脳炎患者（国内 4 例目）の発生について

本日（8 月 8 日）、市内医療機関より、ダニ媒介脳炎の届出がありましたのでお知らせいたします。本件は、国内 4 例目（いずれも道内）の発生となります。

北海道では毎年、回帰熱、ライム病を含めたマダニが媒介する感染症の発生報告があります。札幌市保健所では、(<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/flkansen/f33madani.html>)等を通して、ダニに咬まれないための対策や、咬まれた場合の対応について、市民の皆さまに呼び掛けていきます。報道機関の皆さまにおかれましても、周知方ご協力よろしくお願いたします。

#### 1 本事例の概要

- |              |               |
|--------------|---------------|
| (1) 患者の年齢等   | 市内在住、70 歳代、男性 |
| (2) 患者のダニ刺咬歴 | 有り（詳細不明）      |
| (3) 患者の症状等   | 発熱、頭痛、意識障害、脳炎 |
| (4) 経過       |               |

・ 7 月中旬～発症。ダニの刺咬歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い、医療機関が札幌市保健所に連絡。北海道立衛生研究所において検査実施。

・ 8 月 7 日検査の結果、陽性と判明。

・ 8 月 8 日医療機関が札幌市保健所に発生届を提出。

#### 2 ダニ媒介脳炎の発生状況

区分	1 例目	2 例目	3 例目	4 例目(本事例)
届出受理年月	平成 5 年	平成 28 年 8 月	平成 29 年 7 月	平成 29 年 8 月
届出受理保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所
性別・年齢	女性・30 歳代	男性・40 歳代	男性・70 歳代	男性・70 歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明（海外・道外旅行歴なし）	道南圏域	調査中
その他	—	死亡	死亡	—

※患者、医療機関の特定に係る情報の収集等につきましては、プライバシーの保護のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

<http://digital.asahi.com/articles/ASK7M5J35K7MULBJ00S.html>

**食品への異物混入、最多はゴキブリ・ハエ… 厚労省調査 朝日新聞 2017年8月11日**

購入した食品に異物が入っていたという苦情が、昨秋までの約3年間で全国の保健所に約1万4千件あり、このうち4519件は業者の製造過程で混入したとみられることが厚生労働省研究班の調査でわかった。健康被害は236件で確認された。厚労省は、食品販売業者の異物混入対策を強化する方針という。

研究班（代表＝砂川富正・国立感染症研究所感染症疫学センター第二室長）は昨年12月、保健所を設置する142自治体（当時）に調査票を送付。2014年4月～16年11月に対応した食品の異物混入事例を尋ね、127自治体（89%）から回答があった。

調査によると、工場や飲食店、小売店の食品製造過程で、異物混入が判明したか、可能性が高いものの件数は計4519件。異物はゴキブリやハエといった虫が最も多く、金属やビニール、人の毛もあった。飲食店の料理や弁当など調理済み食品が最も多く、菓子類、米飯やカット野菜などの農産加工品と続いた。

口の中を切ったり、歯がかけたりなどの健康被害は236件。金属や動物の骨、プラスチック片などが原因の約9割を占めた。硬い異物が混入した事例のうち、混入工程がわかった約千件を調べると、調理済み食品や菓子類、飲料は、製造過程で調理器具の一部が入る事例が多かった。調査した国立医薬品食品衛生研究所安全情報部の窪田邦宏・第二室長によると、年度ごとの苦情件数や異物の割合はほぼ同じ。「食品業者は異物混入が起きている現実を認識し、『うちは大丈夫か』と注意してほしい。異物を発見した消費者は保健所に相談して」と話す。食品衛生法は、健康被害の恐れがある異物が混入した食品の販売を禁じており、食品製造の現場では、食品の一部を抜き取る自主検査が主流という。より効果的な対策につなげようと厚労省は、異物混入や食中毒菌による汚染などのリスクを予測し、従来より厳しくチェックする国際基準「HACCP（ハサップ）」に基づく衛生管理を食品業者に義務づける方針だ。厳格にした後は、製造工程で異物混入のリスクを予測し、適した対策をとる。金属片が混入するリスクがある場合は金属探知機で調べることが具体例としてあがっている。厚労省は、ハサップに基づく管理を義務づける食品衛生法改正案を来年の通常国会に提出することをめざしている。（福地慶太郎）

#### ■健康被害があった主な事例

- ・金属たわしの一部が入った焼きそばを食べて口の中を切った
- ・野菜を入れたボウルのガラス片が混入したサラダを食べて口の中を切った
- ・弁当に入っていたプラスチック片で、口の中を切った
- ・プラスチック容器の破片が入ったアップルパイを食べ、口の中を切った
- ・鍋のふたから外れたネジが入ったそばを食べ、歯がかけた